

## 中国における中等職業教育のカリキュラム開発モデル

朴 雪梅

### はじめに

中国においては社会主義の下で、経済体制改革につれて、技術労働者を養成するために、中央政府は一連の強力な政策を推進し、中等職業教育が急速に拡大してきた。そのような中で、2000年代になると、中等職業教育改革の一環として、諸外国の職業教育経験を導入しつつ、中国独自のカリキュラム開発・実践が進められている。

現在中国における中等職業学校のカリキュラムは依然として伝統的な普通科目、専門基礎科目、専門科目の「三段階の課程モデル」(図1)<sup>1</sup>から成っている。中等職業学校のカリキュラム基準では、専門科目と普通科目の割合(理論と実践の時間の割合)の規定があるが、設置されている専門分野は理論が重視され、実践が軽視されていると思われる。当面の問題として労働者のレベルで塾練した人材の不足に直面している。それ故、職業教育をいっそう改革する必要がある。特に学校という場所こそ、生徒の成長・発達に生に触れるところであり、そういうところでこそカリキュラムをつくることのできる、そして学校場で点検評価して改善することが求められる、と言えるのである<sup>2</sup>。

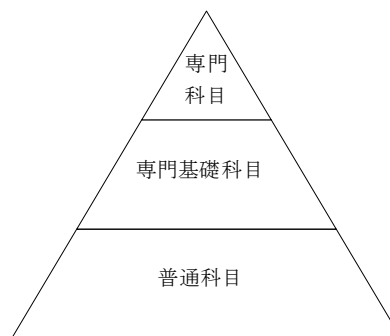


図1「三段階の課程モデル」

備考：普通科目は語文、数学、英語などの内容である。専門基礎科目は各分野に関する抽象度の高い内容であり、専門科目は具体的かつ実践的な内容である。

伝統的な理論を中心とした「三段階の課程モデル」では、実践が軽視されることが避けられない。他方で、社会主義市場経済体制への転換に伴い、労働者の職業転職率が高くなって、市場経済の競争意識もますます強くなっていった。これは職業教育に関する新しい問題であった。市場経済体制の下で卒業生に対して、社会経済改革のニーズと生徒自身発達のニーズに応じて、実践能力を高めることが明確に求められる。そのために、ドイツのデュアルシステムを含む諸外国職業教育モデルを受容して、中国における職業教育の研究者は自国や地域の職業教育における特性を考慮し、中国独自の職業教育カリキュラムモデルを構築する。その代表的な例は「寛基礎・活模塊」モデルと「実技主導型」モデルである。本稿では、近年開発されたこの二つのカリキュラムモデルに着目して、それらの特色を明らかにする。

## 1. 職業教育における学校を基礎とするカリキュラム開発

### (1) 「カリキュラム開発」の概念

「カリキュラム開発」(curriculum development)とはどういうことか。かつては、多くの場合、「カリキュラム編制」に言及し、それは「Curriculum Making」, 「Curriculum Construction」, 「Curriculum Building」などの用語からの翻訳であった<sup>3</sup>。佐藤学が述べたように、「カリキュラム開発」(curriculum development)という用語が特定の様式を示す概念として形成されたのは、1920年代～30年代のアメリカにおける州・都市のカリキュラム改訂運動においてである。そして、この概念は、1930年代～40年代に普及し定着している。その普及を示すキャズウェルとキャンベル(H. Caswell and D. Campbel)の『カリキュラム開発』(curriculum development.1935)は、初めて「development」という概念を用いた。

中国において、カリキュラム開発とはカリキュラムの機能に文化、社会、科学及び人間関係の需要に適応するために絶えず継続的に改善するプログラムである。1974年に日本の文部省が主催したOECD-CERIの東京において「カリキュラム開発セミナー」を開いた。そのセミナーで中国行政担当者も初めて「カリキュラム開

発」という用語を明確に提起し、「カリキュラム開発」は新しい課程の編纂→実験→検査→改善→再編纂→実施→検査など一連の全体的なプロセスだと述べた。それについて、中国の『教育大辞典』（上）1997年によれば「カリキュラム開発」は「学科に基づく」と「システムに基づく」2つの分野に分けられる。

<I>「学科に基づく」は3つの種類がある。①上層部の機構から下される研究—開発—普及型。②上下機構間の相互交流型。③現場機構から提出し、上層部の機構の支持を受けて、問題を解決する型。

<II>「システムに基づく」は3つの種類がある。①学校教育制度を全体的に改革する。②カリキュラム開発モデル学校を作る。③自発的な研究を基礎とする<sup>4</sup>。

本稿で着目するのは<II>の②カリキュラム開発モデル学校で開発されたカリキュラムモデルである。

## (2) 「学校を基礎とするカリキュラム開発」

佐藤学が述べたように<sup>5</sup>、1973年、イギリスで開催されたOECD国際セミナーは「学校を基礎とするカリキュラム開発」(school-based curriculum development, SBCD)を提起した。以後、カリキュラム開発の場を学校と教室に求める研究が展開されてきた。

このカリキュラム開発は、職業教育の場合、独特な意味をもつ。すなわち、普通科目と専門科目の関係、専門科目における理論と実践(実習)の関係が常に開発の中心課題となる。中国では職業教育制度改革の一環として、諸外国の職業教育経験を導入して、中国の職業教育システムに構造した。つまり、中国では、自国と地域の職業教育における特性にあわせて、中国独自のシステムを構築した。そのうち、「寛基礎・活模塊」モデルのカリキュラム開発が、先進的であり有望であったと思われる。しかし、その後の職業教育政策の中で「実践指向の職業教育カリキュラムモデル」(中国語: 实践导向职业教育课程模式) — 「実技主導型」(中国語: 任务引领型课程)が開発され、実験されているので、これら両カリキュラムモデルについて比較検討する。

## 2. 中国独自のカリキュラム開発モデル (1) 「寛基礎・活模塊」モデル

### (1) 「寛基礎・活模塊」モデル (以下KHモデル) の背景と根拠

上海大港職業教育センター所長黄克孝『职业和技术教育课程概论』(2001)によれば、職業教育の発展は、職業教育カリキュラム理論の誕生を呼び起こす。そして、職業教育カリキュラム理論の誕生は、社会経済発展と職業教育発展の実践を切り離すことはできない。そこには職業教育カリキュラムが必要とする適応した二種類の需要(社会経済改革の需要、学生自身の発達需要)、従うべき二種類の規律(市場経済が人材需給に対する規律と教育の内在規律)、解決すべき三つの矛盾があり、「KHモデル」というカリキュラム開発の背景と根拠となる。

まず上記の二種類の需要について、説明する<sup>6</sup>。

① 職業教育カリキュラムは社会経済改革の需要に適応しなければならない。

A) 専門分野設置と生徒募集数は地元の経済発展戦略目標に密接関係するだけでなく、労働力市場の変化にも対応しなければならない。

B) 生徒の就職適応能力を高める。雇用企業と労働者との相互選択と合理的に流動する就職メカニズムの形成により、人材は市場を通じで合理的に配置される。人材主体の選択性が増加し、人材は各自の才能を発揮できるし、雇用機関も需要数により雇用することによって、彼らの最高の才能を発揮させることができる。だから、生徒の就職適応能力を高めることは、職業教育が積極的に市場需要に適応する重要内容になると思う。

C) 学校経営の多様化。職業教育機関は労働市場の変化によって柔軟に実行する。

D) 新しい教育理念を確立する。例えば、市場指向の職業教育理念、教育と社会の一体化理念等。職業教育は社会需要と個人の需要を程良く繋げ、市場経済条件の下で形成された新しい個人価値観を導き、職業教育特性と一致する道徳教育を改革、強化をしなければならない。

E) 職業資格取得率は職業教育を質的に評価する重要な指標になる。

② 職業教育カリキュラムは必ず学生自身の発達需要に適応しなければならない。

学生自身の学習要求は職業教育カリキュラム開発の重要な基礎要因の一つである。

つぎに上記の二種類の規律について説明する<sup>7</sup>。

① 職業教育カリキュラムは市場経済が生み出す人材需給に対する規律に必ず従わなければならない。

a、人材予測システムの確立と万全を図るべきである。

b、人材の「模糊的需求」（曖昧な要求）に従う。

c、「複合型人才の需求」に従う。

② 職業教育カリキュラムは教育の内在規律に従わなければならない。

カリキュラムは教育概念を具体化する方法であるが、教育概念が異なると、カリキュラムが強調するものと教育活動方式もまた大きな相違が生じる。実際に、教育の本質に対して持つ各種概念は往々にして一緒に混同され、区別がはっきりせず、相対する側に、ある種概念を重ねるにすぎない。教育概念は極めて複雑な方式に以って、社会要素、科学技術要素及びその他文化要素の間に関係が発生し、これらの要素及びその相互関係に変化が発生した時、異なった教育概念が社会における地位に変化を起しうる。また、教育概念の変化は必然的に、カリキュラムに対して何を教えるべきか、どのように教えるべきかに、深刻な影響を及ぼす。

最後に上記の三つの矛盾について説明する<sup>8</sup>。

- ① 職業教育は、学生の就職適応能力を高めるが、職業と業務の間で強まる矛盾を解決すべきである。これは、市場経済体制が職業教育に対して求める新しい課題である。一方、社会主義市場経済の発展に伴い、労働者の転職率は上がり、市場競争によって、一人の人が一生で何度も転職するばかりでなく、失業すらするという結果になり得る。労働力市場は、多方面に精通したゼネラリストをますます必要とするであろう。他方、市場経済条件下において、卒業生に対する需要は、明確な職業専門性を有し、ゆえに、学生が学ぶ内容は実際の物を重視し、操作や実践が可能でなければならない。
- ② 市場の急激な変化と教育の発展が相対的安定を必要とするという矛盾。労働力市場は、限定性、波動性、滞後性（立ち遅れること）を有し、一方、教育は、先行性、普遍性を有する。すなわち、教育は経済建設のために奉仕するだけでなく、精神建設のために奉仕することも必要である。
- ③ 学生が学習する原動力である職業専門性および技能学習に対する偏重、卒業後学習を継続することの間の矛盾。職場で実際に必要とする授業内容を強化しないと、学生が学習する積極性を引き出せない。必要な理論や文化知識の授業内容を重視しないと、学生は、卒業後継続して学習する可能性と基盤を失う。職業と技術教育は特に、高級中学段階での中等職業技術教育の授業体系であり、専門科と普通科の間の矛盾を解決しなければならない。

上記の需要、規律、矛盾の説明から分かるように、職業教育が市場経済需求に対して積極的に適応することは、全て直接的或は間接的にカリキュラムの改革と繋がり、カリキュラムの改革は市場需給に積極的に適応する鍵となる。職業教育カリキュラムは社会経済発展に適応しなければならないし、職業教育カリキュラムに対する模索も社会主義市場経済体制の需給を方向づけにしなければならない。また、職業教育カリキュラム開発の中、学生の学習意欲は職業性に十分配慮すると共に、卒業後学生達の色んな学習の為に基礎を作っておくべきであり、学生が学習実際操作技能に偏ってしまうことに対して慎重に対応し、職業教育カリキュラムは学生自身の発達需求を満足させるべきである。

## (2) 「KHモデル」の定義と特色

「KHモデル」は「基礎を広くし、専門教育内容を弾力的にモジュール化（一定のまとまり）する」。このモデルは2段階がある。第一段階は「K」である。「K」ではカリキュラムの内容は一つの仕事に対する必要な知識と技能ではなく、仕事に関する知識と技能をたくさん集めて、今後のキャリア（職業生涯）を続けるために、「知識と技能」の基礎を定めて、技能の訓練と能力の養成を重視する。「K」は政治文化類（基礎科目）、社会適応能力類、工具類、専門基礎理論類の四「ブロック」に分かれる。「政治文化類」は政治、語文、数学、体育の4普通科目である。「社会適応能力類」は職業道德と礼儀の2普通科目である。「工具類」は実用英語とコンピュータ応用の2普通科目である。「専門基礎理論類」は基礎理論と基礎技能を含む。第二段階の「H」は「大型モジュール」と「小型モジュール」の2つに分けているが、「大型モジュール」は一連の「小型モジュール」から構成される。「H」は学習内容が特定の職業に対する必要な知識と技能であり、就職適応能力に着目し、職業資格証をたくさん取得して、学生の就職競争能力を高める。そのために、選択したモジュールの学生は一つまたは複数の職場を選定して、訓練を受けて、将来の就職のために技能を十分に準備する。（図2-1を参考）<sup>9</sup>

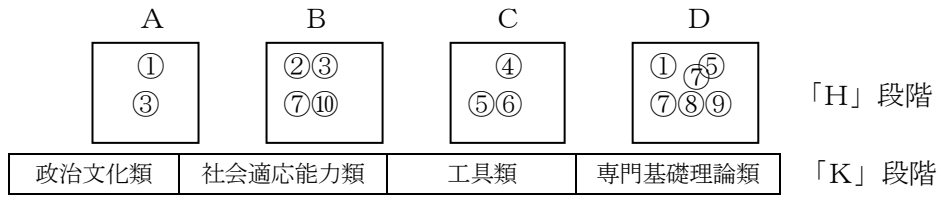


図 2-1 「KHモデル」 仕組み図

備考：図の中で ABCD—「大型モジュール」であり，職業群によって職業と仕事種類の数を決める。①～⑩—「小型モジュール」であり，具体的な能力，技能と知識を指す。それぞれの内容は独自しており，柔軟にくみあわせることができる。各職業分析の結果によって数を決める。

・「KHモデル」カリキュラムの開発プログラム

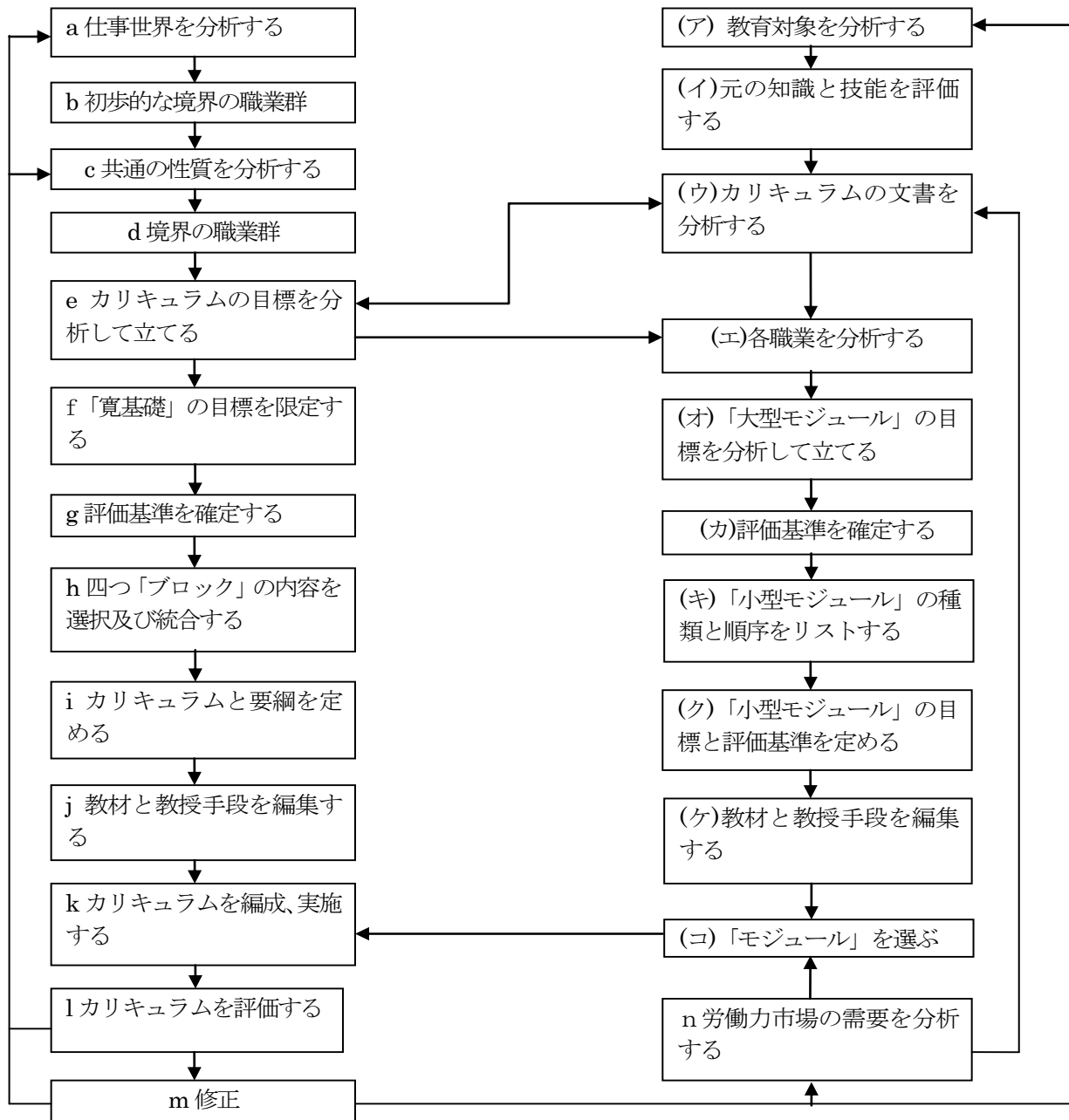


図 2-2 「KHモデル」カリキュラムの開発プログラム<sup>10</sup>

図 2-2 の「KHモデル」カリキュラム開発プログラムは 3 つのプロセスがある。①カリキュラムの目標を分析する（教育政策分析を含む）。②カリキュラム，要綱，教材を編制する。③カリキュラムを評価する。具体的に言えば，以下とおりである。

- a. カリキュラムの目標を分析する。即ち，職業，仕事世界，労働力市場，教育対象とカリキュラムの文書分析などを含む。（図 2-2.a-f, n, アーオ）
- b. カリキュラムの目標によって，課程内容を決める。即ち，カリキュラム，要綱，教材を編制する。（図 2-2.g-k, カーコ）
- c. カリキュラムの目標によって，カリキュラムの設計を検査して，フィードバックされて修正する。（図 2-2.l-m）

### (3) 「KHモデル」の事例

1991 年から「北京市朝陽区職業教育センター」は「KHモデル」を使って，地域の社会経済発展のニーズと合わせて，職業高校と密接に合作して，3 つの組み合わせをもつ人材育成コースを設置していた。即ち，対外経済専門コース，市内バス（運転手，乗務員，保守員）専門コース，電気工事専門コースを分けている。2005 年までに「KHモデル」は全国 20 あまりの省市自治区に流布して実践されていた。ここでは電気工事コースを取り上げ，その「KHモデル」具体的な内容を見ていくことにする。

電気工事専門コースは電気技術者，電気作業員，自動車修理者，電気溶接者など職種を設定したモジュールであり，「北京市朝陽区職業教育センター」と「将台路中等学校」と合作して開発された。学制は 3 年制である。「K」は前期 3 学期，「H」は後期 3 学期である。具体的には，第一段階は「K」-四ブロックを含む科目である。即ち，①政治文化類（政治，語文，数学，体育），②社会適応能力類（職業道徳，礼儀，企業管理），③工具類（実用英語，コンピュータ応用），④専門基礎理論類（電気原理，電気工製図，電気制御，溶接工技術等）が設置された。第二段階は「H」-各モジュールの内容を以下とおり：a エアコン冷凍装置モジュール（冷凍原理，エアコン原理，冷蔵庫補修，冷房補修等），同時に卒業生は冷凍エアコン技術に関わる資格証を取得する。b 電気工モジュール（据え付け工事，電力駆動，電気安全等），卒業生は低圧電気技師を受験する。c エレベーターモジュール（電力駆動，エレベーター原理，エレベーター補修，電気安全等），卒業生はエレベーター雇用資格証を取得する。d 暖房モジュール（給水排水，ボイラー，暖房工事，暖房補修等），卒業生は暖房工事に関わる資格証を取得する。e 自動車補修モジュール（自動車構造，自動車原理，自動車電子電気，自動車補修等），卒業生は自動車技術資格証を取得する<sup>11</sup>。

以上のように，「KHモデル」は普通科目と専門科目の総合性と柔軟性を持っている。つまり，このモデルは社会科学の進歩に基づいて，カリキュラム内容を修正して更新する。一方，学生のために仕事に関する知識を身につけることを準備し，その仕事に対する必要なモジュールを設計する。他方，労働市場の急激な変化によって，学生の就職適応能力を高める。

しかしながら，「KHモデル」のカリキュラムの構成は「三段階課程モデル」に基づいて，専門科目はいくつかの専門系列を変更し，生徒が自由に選択できる。すなわち，選択制を行うことは社会と個人のニーズのためになる（図 2-3 を参照）。ここに述べた「専門基礎科目」はいくつかのもののコースを統合し，新しいカリキュラムを組み合わせるものである。つまり，「KHモデル」というカリキュラムを開発する前提はもとの「専門基礎科目」に基づく統合である<sup>12</sup>。「三段階課程モデル」と比べてこのモデルは職業教育におけるカリキュラムモデルを一層現代化させて，中国の社会主義市場経済にあわせて生徒に関する実践能力の向上と職業能力の養成を行ってきた。しかしながら，「KHモデル」の要求は知識基礎が弱い中等職業学校の学生に対する理想的と見なされている。その本質は「三段階の課程モデル」に沿って，理論を基礎としてカリキュラムを開発して，依然として「実践は理論の応用」であるといえる。しかし，職業教育カリキュラムの関心ある目標は「生徒に知識体系より，むしろ職業体系へ導く」である<sup>13</sup>。

専門 系列 1	専門 系列 2	専門 系列 3
専 門 基 礎 科 目		
普 通 科 目		

図 2-3 「KHモデル」カリキュラムの構成

現在は、中国における職業教育の研究者は「KHモデル」開発とは対照的なモデルとして、就職へより強く導くという「実践指向の職業教育モデル」を積極的に模索している。その一つが、次節で述べる上海市で開発された「実技主導型」モデルである。

### 3. 中国独自のカリキュラム開発モデル (2) 「実技主導型」モデル

#### (1) 「実技主導型」モデルの背景と根拠

近年、上海市において、中等職業教育カリキュラムの顕著な問題は「カリキュラムと就職の関連性が不十分であり、専門分野のカリキュラムが多く、就職及び仕事につながるカリキュラムが少なく、教育内容が立ち後れ、職業学校のカリキュラムが完全に実際のニーズ及び職業資格証と組み合わせられていない」ことである。このような問題の解決のために、「上海市中等職業教育における課程教材の改革をいっそう推進するプラン(2004-2007)」によって、上海市における中等職業教育のカリキュラム改革の序幕が開かれた。このカリキュラム改革では近年の中等職業教育について新しい挑戦と問題を検討しつつあり、「就職主導型」という政策の必要が説かれている。学生には在校期間に熟練技能とよい職業素質を身につけさせて、就職を順調に実現する。上海市中等職業教育課程教材の改革の機関においては、中等職業教育カリキュラム開発の基準について「ハンドブック」を制定し、編成した。この「ハンドブック」は諸外国と国内の職業教育カリキュラム開発の成功経験を学んで、上海市における中等職業教育改革・発展及び実際状況と組み合わせ、カリキュラム開発の基準に対する基本的な規範を定めて、上海市中等職業教育におけるいっそうの改革を行うことをカリキュラム開発の基本構想に反映させた。

「ハンドブック」の内容は3つに分かれている。第一はカリキュラム開発基準の基本構想であり、カリキュラム開発の基本理念と基本原則を含む。第二はカリキュラム開発基準の技術であり、カリキュラム開発基準のプログラムと方法を含む。第三はカリキュラム開発基準の事例である。

#### (2) カリキュラム開発基準の基本構想

##### ・【指導思想】と「実技主導型」職業教育のカリキュラム開発目標

カリキュラム開発基準は上海市教育委員会の「指導思想」によれば「科学発展の概念に基づき、就職に導くこと、職業能力を身につけさせるような目標、職場のニーズと職業基準によって、学生のキャリアのニーズを満足させること、これらによって社会経済発展及び科学技術の進歩のニーズに適応させる」。上海市は中等職業教育カリキュラムの顕著な問題と取り組んで、職業教育カリキュラムの新しい理念を形成し、基本原則(科学性、規範性、実用性、発展性)に基づいて、実際の仕事内容、仕事過程などによって、「実技主導型」を主として上海市の特色ある職業教育カリキュラムシステムを形成している。

上記の基本理念を説明する。

- ① 職業生涯の発展に基づき、専門分野の検索を明確する。
- ② 仕事内容を主としてカリキュラムを設置する。
- ③ 職業能力を身につけさせるような目標として、カリキュラム内容を組み合わせる。
- ④ 典型的な製品によって、教育活動を設計する。
- ⑤ 職業技能の評価を参照して、技能訓練を強める。

この「指導思想」、基本理念、基本原則に基づいて、カリキュラム開発の目標を定める。カリキュラムの開発基準は「上海市中等職業教育における課程教材の改革をいっそう推進する」ことの内容であり、カリキュラム改革の推進と教育の質を向上させる。その本質は「就職を中心として、上海市の特色ある職業教育カリキュラムシステムを再構築し、職業教育カリキュラムモデルの根本的な変化を達成すること」である。

「実践指向の職業教育モデル」の中の一つが、上海市で開発された「実技主導型」モデルである。「実践指向の職業教育モデル」のカリキュラム目標は「技術実践能力」である。「技術実践能力」には3つの内容がある。まず、「理論的な沈思能力」を相対し、身体を使って、仕事内容を完成する能力である。その中で、身体の動きが重要な役割を果たしている。次に、技術実践能力は実践的思考を含む。最後に、技術実践能力の中で「能力」は英語で[competence]、ドイツ語で[kompetenz]であり、学業能力ではなくて、技能、態度、価値観等様々な要因を含む総合状態である。そのうち、実践的思考は技術実践能力のコア要因である。実践的思考は一体何か？それについては徐国慶が注目している佐藤学によれば、熟練教師の「実践的思考様式」について5つ

の特徴を取り上げた<sup>14</sup>。この5つの特徴は同様に技術労働者、技師にも見られる。この視点によると、実践的思考の第一コア要因は「状況判断」である。すなわち、実践状況の中で実践問題の本質を判断し、どのような行動をとるかを判断する。実践的思考のもう一つのコア要因は実践方法に対する思考である。その目的は実践状況によって、問題の解決方法を探ることである。すなわち、技術労働者、技師は問題の難易程度による解決の方法を再思考する必要がある<sup>15</sup>。

(3) 中等職業教育のカリキュラム開発基準の技術

① カリキュラム開発基準のプログラム

「実技主導型」職業教育モデルは中等職業教育のカリキュラム開発基準のプログラムによって、すなわち開発する主体、開発する過程、開発する成果の3つの側面から成る。ここで注目する重要な部分は開発する過程であり、専門的な研究、仕事内容及び職業能力分析、カリキュラム構成分析、カリキュラム内容分析などを含む。3つの成果が最終的に形成される。すなわち人材需要と専門改革研究、専門（実習）カリキュラム、カリキュラム基準である。（図3-1）

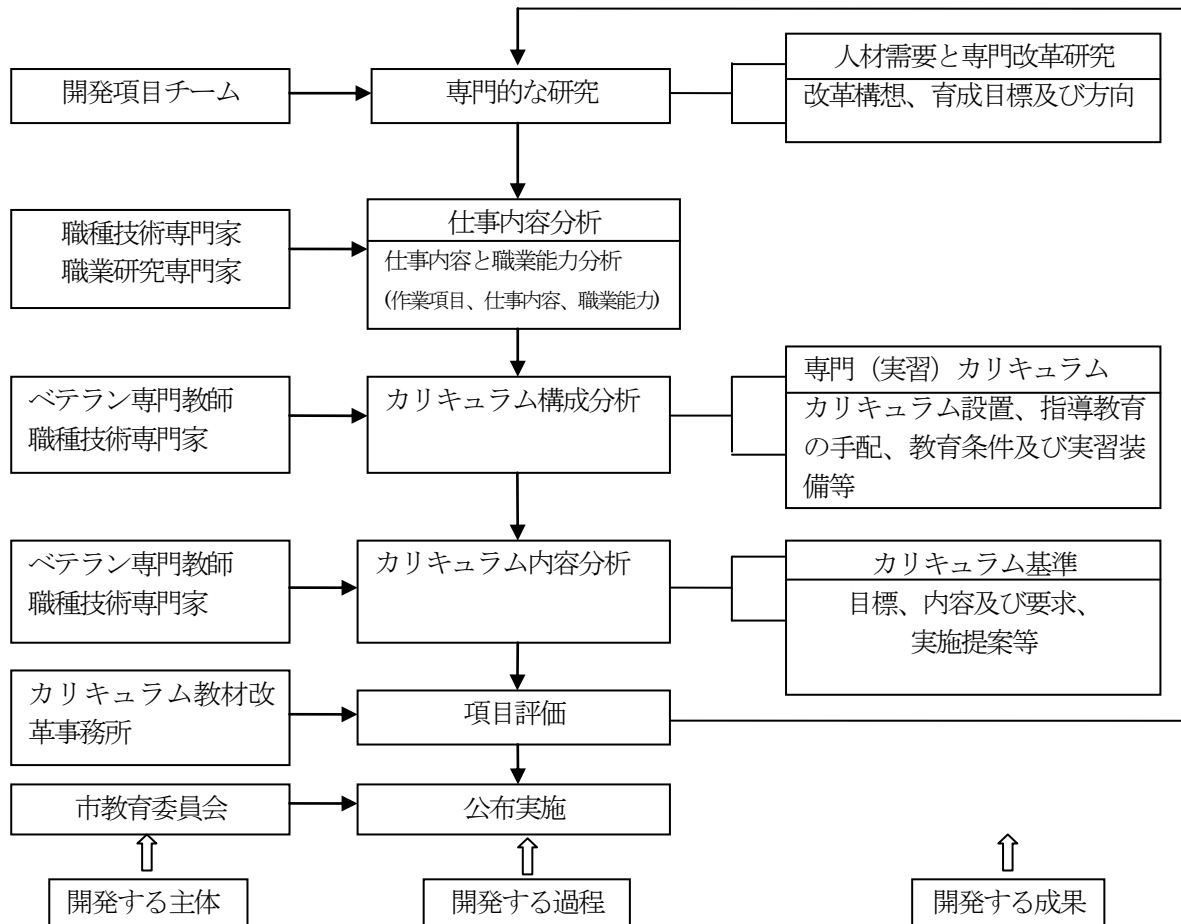


図3-1 中等職業教育のカリキュラム開発基準のプログラム

※備考：『上海市中等职业教育专业教学标准开发指导手册』（2006年）より、筆者作成

② 中等職業教育のカリキュラム開発基準の方法

i～viまでの項目は図3-1の重要な部分となる「開発する過程」であり、以下とおりに説明できる。

i. 人材需要と専門改革研究

人材需要と専門改革研究はカリキュラム開発基準の基礎的な作業である。専門改革研究は職業、企業と緊密に関係して、具体的に言えば、職業、企業に関する人材仕組みの現状、専門分野発展の動向、人材需要の状況、

職業に対する知識能力の要求、職業資格、学生の就職傾向などを含む。マクロレベルから見て、職業、企業の人材需要と職業学校の育成現状を踏まえて、それに基づいて、カリキュラムの改革構想、育成目標及び専門系列方向などを決める。

## ii. 仕事内容分析

仕事内容分析は1つの専門分野に対する職業或いは職業群の中で完成の内容を分解する過程であり、具体的な仕事内容及びこの仕事内容に関する職業能力を身につけることを目指している。分析の対象は仕事であり、1つの専門分野に関与する職業活動がいくつかの相対的に独自の作業項目を分解し、作業項目を分析し、各作業項目に特定の仕事内容を取得し、この特定の仕事内容に関する職業能力を身につける。仕事内容分析の具体的な形式は「仕事内容と職業能力分析」である。

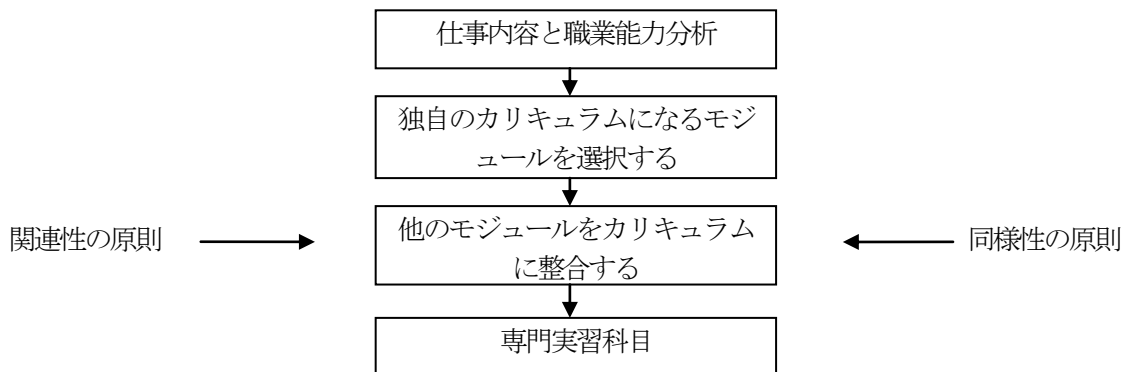
仕事内容分析はカリキュラム開発基準の重要な作業、成果及び特色である<sup>16</sup>。その成果、後続の開発作業（カリキュラム構成分析、専門コア科目と専門系列科目の設置、カリキュラム内容の選択、技能評価項目の確定、カリキュラム開発の基準及び実習室の区分と機能の確定などを含む）に影響を与える。

## iii. カリキュラム構成分析

カリキュラム構成分析では仕事内容の分析結果が専門実習科目に転換され、専門コア科目と専門系列科目とからなるカリキュラムの仕組みである。ここに「専門コア科目」はある専門分野に関する共同の仕事内容を達成するカリキュラムである。これらのカリキュラムが異なる専門分野の間で共同職業能力に基づいて設計される。「専門系列科目」は「専門コア科目」に基づいて、一つの職場に対するいくつかの特定の仕事内容を完成するカリキュラムである。

仕事内容からカリキュラムに転換されたことは学生の職業能力の育成のためになるような原則に従うべきである。一般的に仕事内容の中で1つのカリキュラムになるモジュールを選んで、他の仕事内容に整合する。整合は仕事の関連性によって、知識の関連性ではなく、関連性と同様性の原則に従う。関連性の原則は仕事内容の関連度が高いものに合併されることである。同様性原則は合併された仕事内容と同じレベルとなるべきである。その仕事内容のモジュールから整合された専門コア科目と専門系列科目が「実技主導型」の範疇に属する。

仕事内容のモジュールからカリキュラムの設置に転換するプロセスは以下のとおり：



## iv. カリキュラム内容分析

カリキュラム内容分析は「仕事内容と職業能力分析」の中で職業能力を「専門実習科目」というカリキュラム表を生み出し、専門実習科目の教育内容と需要、技能評価項目と需要、時数の推薦などの内容となる。

カリキュラム表の中で「専門実習科目」によってカリキュラム基準を制定する。カリキュラム基準は学生の学習過程と予想学習成果を反映し、学生を中心として定める。すなわち、目標に向けて行動するのは教師ではなく、学生である。カリキュラム基準とは政府によるカリキュラムに基本的な規範と質的な内容の要求であり、教材編成、授業、評価の根拠であり、教育行政部門管理とカリキュラム評価の基礎である。カリキュラム基準は専門分野のある面・ある領域が学生に知識、技能、過程、方法、態度、価値観等の基本要求を具体的に表して、カリキュラムの目標、設計構想、内容、授業提案と評価提案を定める。

「実技主導型」のカリキュラムはカリキュラム基準の機能を持っている。それに加えて、仕事内容に焦点を



当て、知識・技能と仕事内容の関係、活動設計と学習目標を明らかにする。また、カリキュラムを通じて専門分野の育成目標を実現し、就職指向がカリキュラムと教材で実行される。

v. 項目評価

項目評価は上海市中等職業教育課程教材の改革の機関で実施される。そのプログラムは、ア) プロジェクトチームはカリキュラム開発の内容を完成してから、課程教材の改革の機関に申し、関連する材料を提出する。イ) 課程教材の改革の機関は各専門分野の状況によって、専門家チームを組み合わせて評価を行って、評価意見を提出する。ウ) 評価方法は関連する規定に従って実行する。

vi. 公布実施（各中等職業学校で実施している。省略）

(4) 「実技主導型」モデルの定義、特色

「実技主導型」モデルとは専門の理論ではなく仕事の内容によってコースを設置するカリキュラムである。さらに仕事を中心として、コースの内容を選択し、整理する。仕事の内容は職場の実際状況によって選択され、設計される。

・「実技主導型」モデルの特色：

- ① 主導する仕事：仕事を中心として知識、技能と態度を導く。学生は仕事を遂行する過程で理論的な知識を学んで、学生の総合的な能力を発展させている。
- ② 製品主導：「実技主導型」モデルは仕事の結果を通じて得られた製品、学生の達成する動機を呼び起こす。例えば「スズメを解剖する方法」（典型的な事例を分析する方法）だという諺である。
- ③ 特定のターゲット：「実技主導型」モデルは課程目標を明確に規定する。なお、カリキュラムプロセスをより良く導き、カリキュラムの結果を評価する。
- ④ 実用の内容：「実技主導型」モデルの中に、カリキュラムの内容は仕事のニーズを緊密に取り入れ、理論的な系統性は求めないが、実用の内容が求められる。
- ⑤ 理論と実践の一体化：「実技主導型」モデルは仕事を中心として理論と実践の一体化を実現する。

・「実技主導型」カリキュラム開発のモデル：

- <a> 漸進タイプ：仕事内容は難易の程度によって低度から高度に配列する。
- <b> 並列タイプ：仕事内容の間には複雑程度の区別がなければ、明確な相互関係もない。
- <c> プロセスタイプ：仕事内容は前後を論理関係に従って行う<sup>17</sup>。（図 3-2）

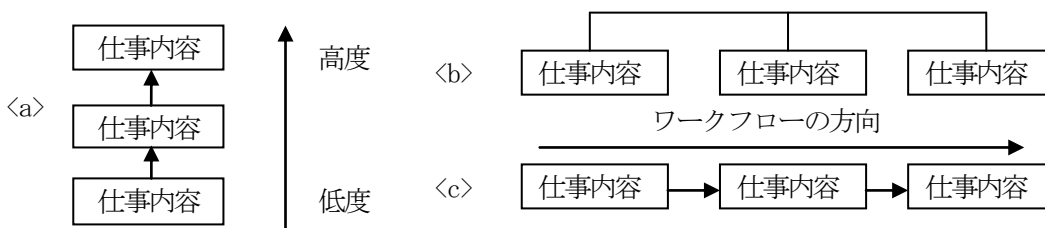


図 3-2 「実技主導型」カリキュラム開発のモデル

(5) 「実技主導型」モデルの事例

2006 年から上海市の教育委員会は「実技主導型」モデルを行っている<sup>18</sup>。各職業学校では人材需要と専門改革研究の報告書、専門（実習）カリキュラム、カリキュラムの基準という三段階に分けている。職業学校は人材需要と専門的な改革研究の基本構想と方法によって、データを集めて分析する。それによって、カリキュラムの指導基準を作る。その中で、専門実習科目は仕事内容と職業能力の合併、整理を通じて、専門コア科目と実習内容を提出し、専門科目が設置される。専門（実習）カリキュラムはカリキュラム目標、カリキュラム内容及び要求を含む。

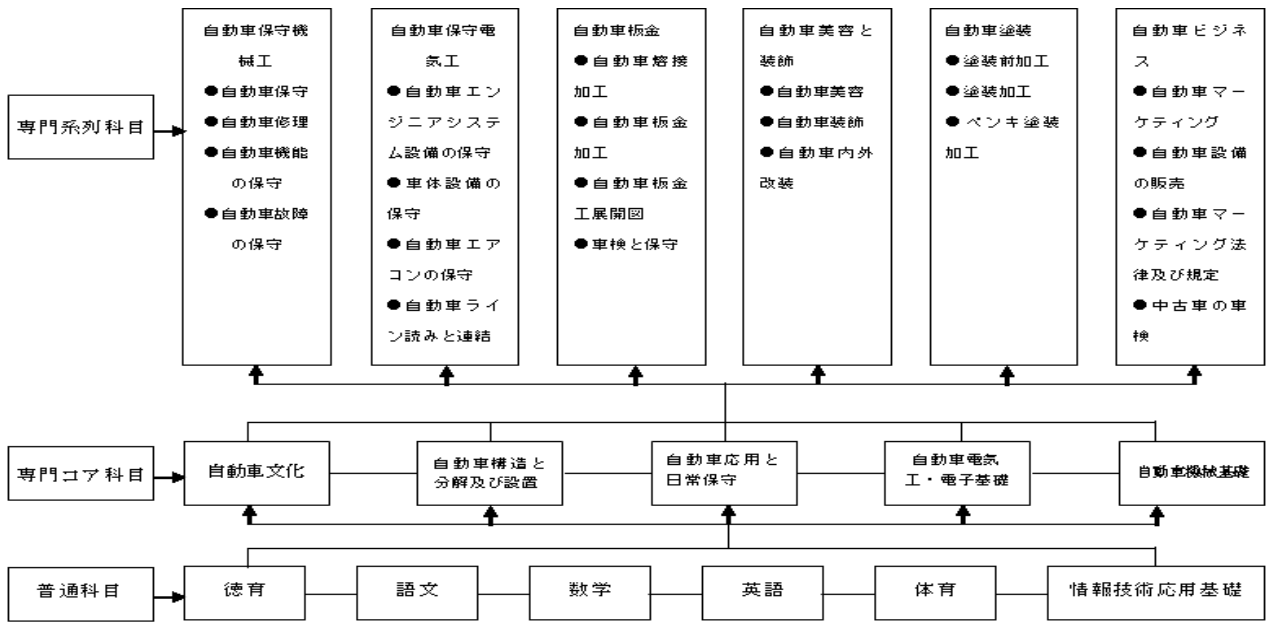


図 3-3 自動車の原理と保守のカリキュラム

図 3-3 の自動車の原理と保守のカリキュラム開発された「実技主導型」モデルは普通科目，専門コア科目，専門系列科目という新三段階で構成され，伝統的な「三段階課程モデル」と異なっている（表 1 を参照）。

表 1 「三段階の課程モデル」と「実技主導型」モデルの相違点

	「三段階の課程モデル」	「実技主導型」モデル
カリキュラム開発	学問分野の専門家が主として導く	企業の専門家が主として導く
カリキュラムシステム	「学問分野」カリキュラムシステム	「実技主導型」カリキュラムシステム
カリキュラムモデル	普通科目，専門基礎科目，専門科目という三段階で構成される	普通科目，専門コア科目，専門系列科目という新三段階で構成される
カリキュラムの設置	知識体系に基づいて，学問分野の境界によってカリキュラムを設置する。	能力体系に基づいて，仕事内容の相関性によってカリキュラムを設置する。
カリキュラムの内容	知識自身の論理関係に基づいてカリキュラムの内容を選択し，構成する。基礎理論を重視する。	仕事内容を中心としてカリキュラムの内容を選択し，構成する。実習を重視する。
カリキュラムの実施	理論と実践の二元分離化	理論と実践の一体化
カリキュラムの理論	本質は「学問化」であり，理論の系統性，完備性が積極的に求められ，「実践は理論の応用であり，付属する」	本質は「実践指向化」であり，知識の系統性が強調されず，内容の実用性が重視される。仕事を中心として知識，技能と態度を導いて，理論を実践に従属させる。

出典：『上海市中等职业教育专业教学标准开发指导手册』より筆者作成

上記に述べたように，「実技主導型」モデルは仕事の主体的地位をはっきりとさせる。このモデルは学生に仕事を中心として知識・技能を身につけさせて，できるだけ早く職場に入って実践させる。また，学生が仕事を遂行する過程で体験の機会を与える。それで，中等職業学校においては 1 年次より短期間実習と 3 年次より

一年間長期実習を行い、「企業と学校の連携訓練システム（「校企合作」）訓練制度」を進めている。

## おわりに

中国独自のカリキュラム開発モデルすなわち「KHモデル」と「実技主導型」モデルについて、その共通点は生徒の職業能力を向上させるため、実践的教育を重視することである。ただ、理論と実践の二元分離化となる「KHモデル」に対して、「実技主導型」モデルは仕事内容を中心として理論と実践を一体化するカリキュラムである。「KHモデル」より後に開発された「実技主導型」モデルにおいて、その特色をまとめると以下のようなになる。

- ① 職業教育のカリキュラム開発は、カリキュラムが仕事内容を中心として構成されている。すなわち、カリキュラムが仕事内容の変更によって更新されている。このように開発されたカリキュラムでは、職業教育のカリキュラムと職業能力のニーズを緊密に一致させる。それに従って、学生にとって今まで学んだ理論と実践（仕事内容）がつながる。
- ② さらに職業学校の学生にとって、仕事に集中でき、技術実践能力の育成のためになる。また、将来の仕事内容と直接に関連することが指摘されている。それによって、学生の学習意欲を高める。学生は「実技主導型」モデルの授業を受けるとき、理論と実践（仕事内容）が緊密につながるのだから、彼らはすぐに職業の有効性のために学んできたことを知る。これにより彼らの学習意欲を大いに呼び起こすであろう。

現在、中国では中等職業教育におけるカリキュラム開発モデルを構築しつつあるが、カリキュラム改革と実践の両面から見て、「実技主導型」モデルはいくつかの課題が指摘できる。

第一は、実技主導カリキュラムは1つの専門分野ではなく、全体的な専門分野体系を築く。各コースの基準はある専門教師の独断によって制定されるのではなく、関連機構によって統一的に制定される。

第二は、「実技主導型」のカリキュラムは多様化を促すため、このモデルのカリキュラム内容と実施の下で、教科書、実習設備、教室及び補助材料等教育資源を満たすべきである。

第三は、実技主導は教師に対する要求がもっと高くなる。教師はより仕事内容の系統性、継続性、仕事内容の割り当ての平衡性等を捉える。こうした課題に応じるようカリキュラムの改善が望まれる。

## 注

<sup>1</sup> 馬建富著『職業教育学』（2010、華東師範大学出版社）p.83

<sup>2</sup> 安彦忠彦著『カリキュラム開発で進める学校改革』（2003、明治図書）p.21

<sup>3</sup> 石偉平・徐国慶著『職業教育課程開発技術』（2011、上海教育出版社）p.19

<sup>4</sup> 『教育大辞典』（上）増訂合編本（1997年 上海教育出版社）pp.896-897

<I>—①、<II>—②上海で訪問した科技管理学校はこれに相当する。この学校のカリキュラムモデルは華東師範大学（徐国慶教授）が上海市教育委員会から依頼を受けて開発された。（徐国慶教授のインタビューに基づく）

<sup>5</sup> スキルベック（Skilbeck）によれば、SBCDは、「カリキュラム開発のための最良の場は、学習者と教師が出会う所である」という考え方にに基づき、学校を「人間的な社会制度」として再認識し、学校と教師のカリキュラム上の「自由」と「自律性」に関わる「哲学」であるとも言われている。また、SBCDの諸事例の研究を行ったイーグルストーン（Eggleston）は、次のように広義にSBCDを規定した分類を示している。

<1> 国家的プロジェクトを基礎とした場合

(a) 国家的プロジェクトの副産物として発生した SBCD

(b) 国家的プロジェクトを基礎としてイニシャティヴを形成した SBCD

(c) 国家的プロジェクトを踏襲した SBCD

<2> 学校内部のプログラムの主導による場合

(a) 特徴的な方法で課程と授業の経営を行う学校的意思決定により生じる SBCD

(b) 学校の特異な教育上の必要から生じた SBCD

この分類で示されるように、SBCDは、国家的なカリキュラムに対立的な開発様式として相対的に捉えられているのではなく、カリキュラム開発の必然的な様式として捉えられ、国家的なプログラムであれ、学校固有のプログラムであれ、その学校が自由と責任に基づいて選択し発展させた場合を示す概念となっている。

佐藤学著『カリキュラムの批評』（2002、世織書房）pp.69-70

<sup>6</sup> 黄克孝主編『職業和技术教育課程概论』（2001、華東師範大学出版社）pp.147-148

<sup>7</sup> 同上書 pp.149-152

- 
- <sup>8</sup> 同上書 pp.153-154
- <sup>9</sup> 蔣乃平等「宽基础・活模块课程结构研究」（『中国职业教育』2002年3月 pp.50-53頁）p.50
- <sup>10</sup> 蔣乃平『宽基础・活模块的理论与实践』（宁波出版社，1999年）p.31
- <sup>11</sup> 黄克孝著『职业和技术教育-课程概论-』（2001，華東師範大学出版社）pp.162-163
- <sup>12</sup> 石偉平 徐国慶著『职业教育课程开发技术』（2011，上海教育出版社）pp.120-121
- <sup>13</sup> 同上書 p.123
- <sup>14</sup> 佐藤学による熟練教師の「実践的思考様式」の5つの特徴は以下のとおり。
- ① 熟練教師は、授業後の反省の思考よりも、むしろ授業過程の即興的思考において、初任教师より豊かな内容を活発に思考している。すなわち、熟練教師の優秀さは、まず、即興的思考において表現される。
  - ② 熟練教師は、授業の状況に、積極的、感性的、塾考的に関与している。すなわち、熟練教師は、授業場面で刻々と変化する子どもの学習に敏感に関わりながら、それらの問題や意味を発見し解説し、その授業の多様な可能性を探る方法で、実践的な問題の表象や解決を行っている。
  - ③ 熟練教師は、多元的な視点から授業の複合性に接近している。熟練教師は、授業者としての視点、観察者としての視点、一人ひとりの子どもの立場に身をおいた視点などを総合しながら、複雑な状況で多義的な事実の解説と判断を行っている。
  - ④ 熟練教師は、授業と学習の文脈に即して思考を行っている。すなわち、子どもの1つの発言に対しても、それを、授業の展開の時間的な関係や内容的な関係の中で、また、他の子どもの思考との関連の中で位置づけて理解し、それに即応した思考と判断を行っている。
  - ⑤ 熟練教師は、授業の諸事象の相互の複雑な関係を発見する過程で、その授業に固有な問題の枠組みを絶えず構成し、再構成している。
- 佐藤学著『教師というアポリアー-反省的实践へー』（2000，世織書房）pp.194-216
- <sup>15</sup> 石偉平・徐国慶著『实践导向职业教育课程研究』（2008，上海教育出版社）pp.167-169
- <sup>16</sup> 教育における仕事の意義について、デューイの考察は示唆に富んでいる。
- ① 仕事は、個人の特異な能力と社会奉仕との釣り合いをとらせる唯一の事柄である。
  - ② 仕事は、目的をもった連続的な活動である。したがって、仕事を通しての教育は、他のどんな方法よりも、学習を助ける要素を、より多くその内部に結合させている。
  - ③ 仕事のための唯一の適切な訓練は、仕事を通しての訓練である。
- J. デューイ 河村望訳『民主主義と教育』（人間の科学社 2000年）pp.403-405
- <sup>17</sup> 馬建富著『职业教育学』（2010，華東師範大学出版社）pp.88-89
- <sup>18</sup> 『上海市中等职业教育专业教学标准开发指导手册修订本』（2006年 第8版上海市中等职业教育课程教材改革办公室）